

産地戦略

実施期間 令和6年度

新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

実施主体都 北海道 旭川市 さつまいも
道府県対象
地域対象品
目



化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	● 温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

さつまいも栽培において、現行の石油由来ポリマルチをバイオマス由来成分を含む生分解性マルチに転換するための現場実証を行い、環境負荷軽減とともに、マルチの剥ぎ取りの省力化技術とあわせ、栽培マニュアルを作成する。なお、実証試験は1年間とし、普及見込み面積は作付け面積の約3分の1とする。尚、さつまいも栽培は年1回の作型のため、生育や収量、品質が気象条件に左右されることを考慮し、来年度の実証試験について再検討する。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載の通り												
技術名													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載の通り												
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	3.2	▶ 10.0	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.0	▶ 4.0	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.0	▶ 4.0	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.0	▶ 4.0	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境省力	プラスチックマルチ使用	▶ 生分解性マルチの導入	プラスチックマルチ（石油由来資材）の使用量削減 マルチ剥ぎ取り工程及び回収工程の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
省力	マルチ剥ぎ取り及び回収に係る作業時間（時間）	80	▶ 0	10aあたり2.5時間×2人の削減 （現状はプラスチックマルチ使用面積1.7haとして算出）

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

地域のさつまいも生産者に対し、マニュアルに基づいた栽培指導により技術の普及と定着を図る。

関係者の役割

関係者名	下都賀農業振興事務所	生産者		
役割	マニュアル作成及び技術指導による技術の普及	技術の実証及び導入		

その他